

えん罪・仙台北陵クリニック事件 千葉刑務所 守大助さん面会記



4月26日(木) 千葉/九十九里地域支部

やっと逢えた大助さんは、ガラスの向こうで元気に笑ってくれた。「大丈夫ですよ、僕はやってないんですから」と力強く「聞く以外にないですよ」と。どんなに苦しんでいるか、どんなに辛い思いをしているか、と胸がいっぱいになり何としても顔を見たいと面会希望を出していたが、突然、数日前に電話を頂き実現しました。

ガラスの向こうで「負けませんよ」と笑顔で答えてくれた大助さん。たくさんの思いを抱え込みながら「負けません」を互いに繰り返した。白石川(宮城県白石市を流れ阿武隈川に注ぐ)と一緒に歩く約束を早く実現しよう。今年の桜は残念だったがふるりの木立の中を、「君と歩こう」と夫は笑顔で話す。二人ともよく大きな声で笑った。

「ここに来ないと笑えない」と大助さん、手は荒れていないか、具合はどうか、確かめながら「大丈夫です」と答える彼に逆に励まされながら「いつでも飛んでくるからね」大網街道から『境橋』を渡って5つめの信号を右に登ると赤レンガの扉。「門の前の赤いポストに手紙を入れにくるんでだよ」「逢えなくても、時々門まで来るんだよ」と告げながら、時間が来てハイタッチをして別れた。最高裁を「最低裁」にしないようにもっともっと私たちがたくさんの人に伝え闘いを広げなければと夫と二人、力強い足どりで帰って来た。

玉田ミタテさんと典彦さん



千葉中央メーデー

えん罪・仙台北陵クリニック事件とは

守大助さん(当時29歳)が当時勤務していた医療法人北陵クリニックに於いて患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されている。試料は鑑定時に全量消費・廃棄され、再鑑定ができない。

2012年2月10日仙台地裁に再審申立をし、2014年3月25日に再審棄却される。仙台高裁に即時抗告を行が2018年2月28日棄却される。3月5日最高裁に特別抗告を行う。

4月27日(金)ご両親

私の都合で午後からの仕事での面会でしたので、待合室で先輩に何か嫌みでも言われているのかなと待っていると待ち時間もなく直ぐに現れた。暑いこともありTシャツ一枚だったのでさすが学生時代陸上で鍛えた身体の線は17年の歳月にも係わらず衰えず、訓練された自衛隊員にでも見間違えるほどでした。

私の体調の説明と東京の会の小塚さんが亡くなられたことなど病の床から毎月多数の励ましの手紙を頂いたので悔しさを募らせていました。

23日には千葉在住の96歳の方が戸賀さんと面会に来て頂いたと喜んでおり、息子さんが帯広で牧師さんをなさっていて大助の話聞いて面会を熱望したとのこと。4月の後半空いていたので大網白里市在住の玉田ご夫妻にも急遽面会していただこうと、そんなこんなで話に夢中になり28日は47歳の誕生日でしたが話すのをすっかり忘れていたほどでした。

改めておめでとうですが一日も早く皆さんと一緒にお祝いしたいと願うばかりです。

激励先〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 **2018年 117号**

●5月の面会16、6月は月初めにメール等でお知らせします。救援会神奈川県本部に問合せを。

□面会申込み/□ 国民救援会神奈川県本部 Tel050-3310-1368 fax045-663-7953。

E mail-kyuenkai-k1@clock.ocn.ne.jp 発行/国民救援会千葉県本部 Tel043-239-7730 fax043-239-7740

E・mail kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp

4月23日(月)

面会室に出てこられた大助さんに初めて会った途端、入手した資料によれば、現在45歳位なのに、ずいぶん若く見え、また非常に真面目な人に見えました。

その大助さんは看護師として、学んだ知識と技術を十分に活用しつつ、忠実に勤務しておられたと想像できます。あのような事件を起こすなど考えられないと感じました。もう一つ、冤罪服役などで、気分的に落ち込んでいるのではないかという予想もあったのですが、話の中で笑顔を見せるとか、はじめの私にも好意的に聞いてくれたり、頷いたりされて、とても良かったです！安心した！と言う感触を得ました。

冤罪を晴らすために皆さんが署名活動、再審の申請など種々対策されていることに期待しておられるのも、心強い支えになっているのでしょう。

淡々として執着しないで服役しているようにも見えますが、大助さんの胸中は、とても辛いのではないかと推察しながら面会室を出ました。早く再審がなされ、無罪解放になるために、支援者の一人として祈り続けてまいります。どうもありがとうございました。

差し入れ本2冊 秋葉豊州さん

秋葉さんは96歳で、3月に一人で刑務所に面会に行ったが面会できず。私が秋葉さんに何度か手紙と電話でやりとりをしてこの度一緒に面会をしました。帯広で息子さんが牧師さんをしていて、そこで署名をして冤罪で苦しんでいる大助さんを支援をしたいと思ったそうです。地域でボランティアをしてる。足元もすっかりで驚きました。(戸賀)



千葉の秋葉さん



4月18日(水)一羊会

「一羊会」のわたしと聖公会人権委員会の委員で面会をしました。大助さん開口一番仙台高裁が再審申請却下をしたことの悔しい思いを話されました。

大助さんがこれから奪われていく時間を思うと、どのような言葉も見つかりません。私たちが嶋原裁判長に期待を持っていましたので、残念無念の思いでいっぱいです。「たったこれだけの判決内容に何故4年もかかったのか」と大助さんの司法への不信に寄り添うのが精一杯でした。

食材の下処理の仕事の大変さも伺いました。朝5時半から朝食準備をするとお聞きし、労働時間はきちんと守られているのか、心配になりました。1000人分の食事なので、食材の搬入も重労働とのことです。どうしてここまで過酷なのか、腑に落ちない思いでした。

また、刑務所に冷暖房がないことに関して聞くと「冬は寒さに慣れているから、大丈夫なんです。だけど、熱帯夜が辛くて」と話されていました。

冤罪の苦しみの上に重なる生活環境の劣悪さです。2月に私は一人でドイツの小さな旅をし、ニュルンベルグの教会の MARIA 像の絵はがきを送りました。MARIA 像の温かなまなざしがお母様の深い愛情に繋がると感じたのです。

最高裁に向けて大助さんとご家族はまた辛い日々を過ごされます。「一羊会」は小さな支援しか出来ませんが、チラシの書き直しをはじめ、大助さんを支えていきます。

差し入れは現金と文庫本、日用品、雑誌

森田麻里子さん

